

令和2年度 予算のお知らせ

健康保険

経常収支で約5億6千万円の大幅な赤字予算となりました

● 予算編成の背景

日本は超高齢社会に突入しており、平成30年には65歳以上の高齢者人口の割合が28.1% (3,558万人) と過去最高を記録しました。その一方で、現役世代は平成7年の8,716万人のピークを境に減少に転じ、30年には7,545万人にまで減少しています。

高齢者医療費の一部は現役世代が納める保険料から賅われていることから、現役世代の負担は急激に増加しています。平成31年度には1人当たりの平均保険料額は年間約50万円となり、過去10年余りで約11万円増加しました。

さらに令和4年からは、団塊の世代が75歳に到達しはじめることで納付金が急増し、現役世代の更なる保険料負担の上昇や健保財政の急激な悪化が見込まれています。

一方、少子高齢化により社会保障の支え手が減少し、平均寿命が伸び続けるなか、健保組合には加入者の健康寿命の延伸と、医療費の増加抑制を担う役割が一層求められています。今後も国民皆保険制度を維持していくためには、高齢者医療費の負担構造改革等の早期実現が強く求められます。

● 予算の概要

当健保組合の令和2年度予算は、総額58億1,850万円、実質的な収支状況を示す経常収支で5億5,600万円の赤字を計上する非常に厳しい編成となりました。

主な収入は、皆さまと事業主に納めていただく保険料で、50億1,594万円を見込んでいます。一方、主な支出は、皆さまの医療費に充てられる保険給付費28億1,986万円（前年度比3億552万円増）と、高齢者医療制度を支えるために高齢者医療制度へ支払う納付金22億7,196万円（同1億6,752万円減）となる見込みです。これら2つの支出だけで保険料収入を上回る見通しです。収入の不足分は、前年度決算からの繰越金及び別途積立金等からの繰入金で補填し、保険料率は据え置くことといたしました。

当健保組合では、引き続き事務経費の節減に努めるとともに、被扶養者の資格確認や医療機関等からの請求のチェック強化、ジェネリック医薬品の使用促進などを推進してまいります。また、第2期データヘルス計画に基づいて、皆さまの健康に役立つ効果的な保健事業を実施し、医療費の節減に努めてまいります。

介護保険

健保組合では、40～64歳の被保険者（介護保険第2号被保険者）から介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しております。令和2年度は、介護納付金5億5,913万円に対し、介護保険収入は5億547万円となる見込みです。収入の不足分は繰入金7,000万円で補填します。

収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	505,472	99,112
繰入金	70,000	13,725
国庫補助金受入	1	-
雑収入	2	-
合計	575,475	112,838

支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	559,130	109,633
介護保険料還付金	1,000	196
積立金	1	-
予備費	15,344	3,009
合計	575,475	112,838

令和2年度 収入支出予算総額 58億1,850万2千円

※ () 内は「被保険者1人当たり額」

